



〔海の状況 (7/16~8/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年並み ($\pm 0.5^{\circ}\text{C}$) からはなはだ高め (平年差 1.5°C ~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1998年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年並み ($\pm 0.5^{\circ}\text{C}$) からはなはだ高め (平年差 1.5°C ~) で推移した。(図2)

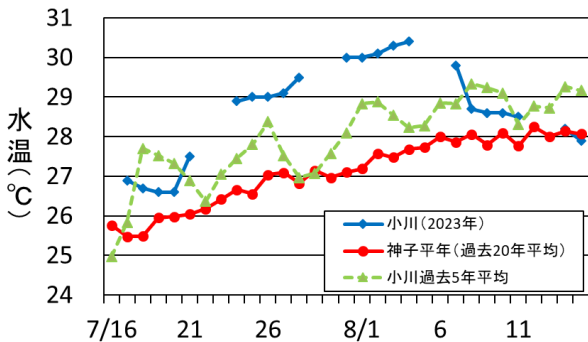


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

※小川過去5年平均は2018年~2022年の小川地先の平均値である。

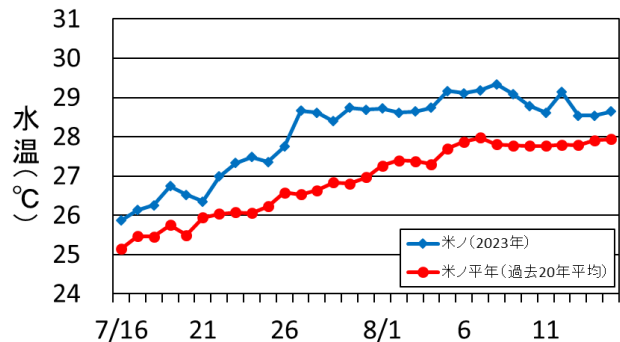


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：7月〕

7月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0m)では、若狭湾沖で 24°C ~ 26°C の範囲が小さくなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸で 20°C ~ 22°C の範囲が小さくなっていた。水深100mでは、若狭湾沖で 14°C ~ 16°C の範囲が大きくなっていた。水深200mでは、若狭湾沖で 6°C 以下の範囲が大きくなっていた。(図3)

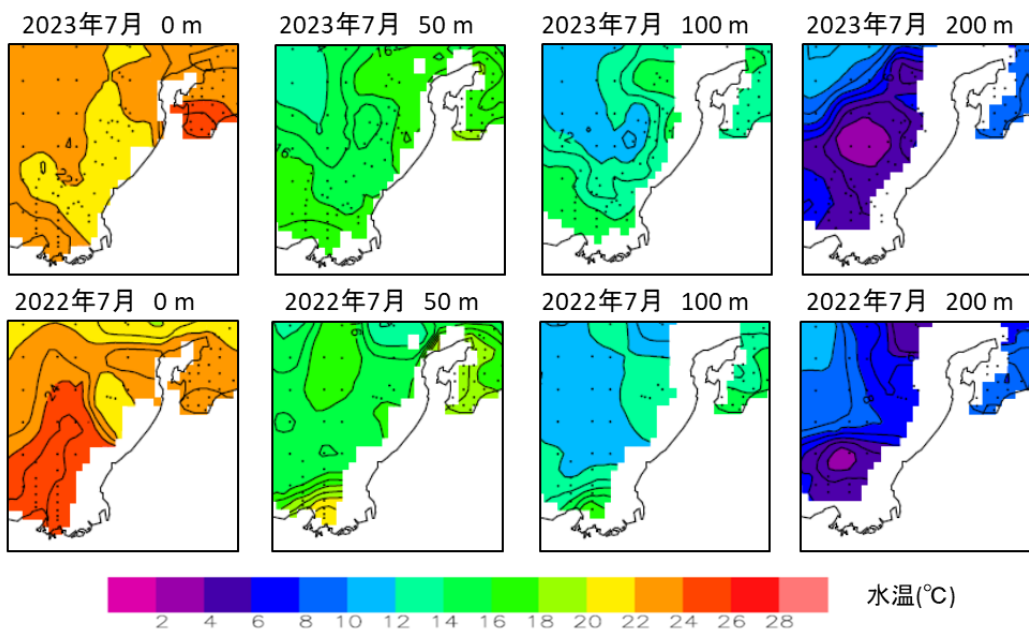


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

大型クラゲ情報

8月21日～22日にかけて長崎県対馬の定置網で3個体（傘径30～80cm）の入網が確認されています。福井県での確認情報は今のところありませんが、引き続き大型クラゲの動向に注視していきます。

（漁場環境グループ 岩崎 俊祐）

〔県内の漁模様：7月〕

2023年7月の県内の総漁獲量は513tで、前年同月を101t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は353tで、前年同月を22t下回った。サバ類は前年を大きく上回り、トビウオ、スズキ、ケンサキイカはやや上回ったが、サワラ、アジ類、ブリ類は大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は3tで、前年同月を7t下回った。アカエビが前年より大きく下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は155tで、前年同月を71t下回った。スルメイカが前年を大きく下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(7月)

定置網 (kg)						底びき網 (kg)					
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
イワシ類	5,960	3,403	22,944	2,557	-16,983	カレイ類	56	124	604	-68	-548
(マイワシ)	255	23	2,899	233	-2,644	アカエビ	3,627	10,960	20,160	-7,333	-16,533
(ウルメイワシ)	0	110	214	-110	-214	その他	8	363	1,325	-355	-1,317
(カタクチイワシ)	5,705	3,271	19,830	2,434	-14,125	合計	3,691	11,447	22,089	-7,756	-18,399
アジ類	33,945	56,850	66,419	-22,905	-32,475	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(アジ)	18,091	31,261	35,489	-13,170	-17,398	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
(小アジ)	9,256	23,126	27,683	-13,870	-18,427	サバ類	544	26	92	518	452
(アオアジ)	6,597	2,462	3,247	4,135	3,350	タイ類	7,597	9,493	7,678	-1,896	-81
サバ類	141,854	87,791	44,390	54,062	97,464	(マダイ)	383	360	1,055	23	-672
(サバ)	123,499	79,894	30,681	43,605	92,817	(チダイ)	0	0	4	0	-4
(ピンサバ)	18,355	7,898	13,709	10,457	4,646	(キダイ)	7,069	9,060	6,498	-1,991	572
ブリ類	25,197	38,576	234,063	-13,380	-208,867	(その他タイ)	145	73	122	71	23
(ブリ)	15,596	11,577	7,271	4,019	8,324	アマダイ	1,374	1,313	3,310	60	-1,936
(ワラサ)	628	6,349	9,493	-5,721	-8,864	スズキ	2,562	473	2,813	2,089	-250
(ハマチ)	5,083	8,446	105,073	-3,363	-99,990	スルメイカ	20,399	110,268	62,250	-89,869	-41,851
(ツバス)	3,489	9,042	107,181	-5,553	-103,691	その他イカ	1,837	650	3,327	1,188	-1,489
(アオコ)	400	3,162	5,045	-2,762	-4,645	(ケンサキイカ)	1,647	311	3,170	1,336	-1,523
サワラ	57,128	83,304	215,235	-26,176	-158,107	タコ類	29,262	21,419	35,344	7,843	-6,082
トビウオ	26,548	23,159	42,974	3,389	-16,426	その他	92,203	83,849	128,003	8,353	-35,800
タイ類	8,361	7,034	9,981	1,327	-1,620	合計	155,779	227,492	242,817	-71,713	-87,038
スズキ	9,676	5,057	7,992	4,618	1,684	全漁法 (kg)					
その他イカ	14,223	7,687	25,153	6,536	-10,929	魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
(ケンサキイカ)	11,145	6,474	20,522	4,671	-9,378	合計	513,108	614,752	996,591	-101,644	-483,484
その他	30,747	62,950	62,534	-32,204	-31,788						
合計	353,638	375,813	731,685	-22,175	-378,047						

※1 平年の値は2012～2021年の10年平均です。 ※2 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

（漁獲状況…石川県：7月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：7月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：7月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：7月中旬～8月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…サバ18.8t、マアジ4.0t、フクラギ・コヅクラ1.2t、サワラ類1.1t

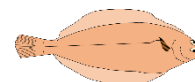
京都府…定置網…サバ類8.5t、サワラ類2.5t、トビウオ類2.3t、マアジ0.7t

兵庫県…定置網…スズキ140kg、シロイカ52kg、アジ45kg、トビウオ34kg、マサバ18kg、イサキ10kg

鳥取県…まき網…ウルメイワシ19.7t、マサバ13.24t、マアジ5.1t、マイワシ2.0t、ブリ類1.7t

（漁場環境グループ 梶原 大郁）

ヤナギムシガレイの加入量調査について



～桁網調査、始めました。～

はじめに

ヤナギムシガレイは本県ではササガレイ、アマガレイあるいは若狭かれいの名前で親しまれており、毎年皇室への献上が行われている重要魚種です（右上のイラストは絵心のない私なりに書いてみたヤナギムシガレイ、のつもりです）。

ヤナギムシガレイは底曳網によって漁獲されていますが、平成15年に149tあった漁獲量は令和4年には9tにまで減少しており（図1）、資源の維持・増大が望まれています。水産試験場では平成28年度からズワイガニの稚ガニ分布量を把握することを目的に調査船「福井丸」による桁網調査を行っています。そこで、今年度からこの桁網を応用したヤナギムシガレイの加入量調査を実施することにしました。本稿では、今年度実施した桁網調査の概要を紹介します。

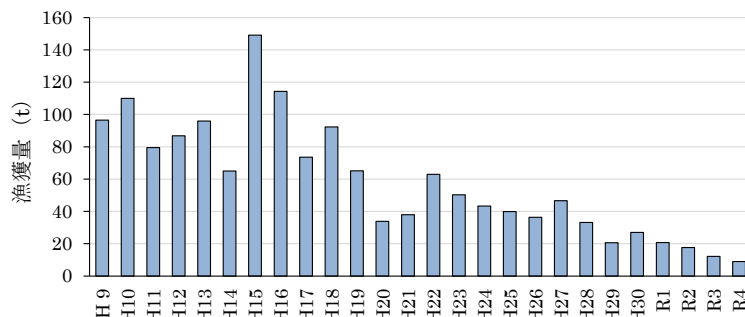


図1 県内のヤナギムシガレイ漁獲量の推移

調査方法

調査は7月～8月に小浜沖および高浜沖の水深110m、130m、150mおよび170mの8定点ならびに越前沖の水深150mの2定点において、2ノット、20分間の曳網条件で実施しました。ヤナギムシガレイは夜行性であることが知られているため、小浜沖および高浜沖の8定点では日中および夜間（20時以降）にそれぞれ調査を実施し、採集効率の比較も行いました（図2）。



図2 「福井丸」の桁網（左）と夜間操業の様子（右）

調査結果

調査結果の概要を表1に示します。全18操業で174尾のヤナギムシガレイが漁獲されました。水深別に日中と夜間それぞれで操業を行った小浜沖および高浜沖では、いずれも水深170mで最も漁獲尾数が多く、1定点を除いて日中よりも夜間の漁獲尾数が多い結果（1.8倍）となりました。一方、当歳～1歳である小型魚は確認されず、加入量や資源状況の悪化が懸念されます。

表1 桁網調査結果の概要

調査海域	水深 (m)	ヤナギムシガレイ漁獲尾数		
		日中	夜間	合計
越前沖	150	4	—	4
	150	2	—	2
小浜沖	110	0	0	0
	130	3	5	8
	150	17	10	27
	170	10	34	44
高浜沖	110	0	0	0
	130	0	0	0
	150	11	18	29
	170	19	41	60
合計		66	108	174

今後、桁網で採集されたヤナギムシガレイの体長・年齢組成を詳しく調べるとともに、水深や水温との関係なども解析を進める予定です。また、9月に解禁される底曳網での漁獲物調査も実施したいと考えています。その結果については底曳網漁業者の皆様へ共有するとともに、今後のヤナギムシガレイの資源対策を協議していきたいと思っていますので、その際は御協力のほどよろしくお願いいたします。

（海洋資源研究センター漁業管理グループ 元林裕仁）